

SDGs事業創出プラットフォーム
「鹿島モデル」を起点に、環境中心の
取り組みから経済・社会の取り組みへ
ボトムアップ！

佐賀県鹿島市

2030年の目標 安全・安心の確かな暮らしを営む、ずっと暮らし続けたいまちの実現 そして、2050カーボンニュートラルへ

2030年以降も、今ある環境・豊かな干潟が保たれ、子供たちが外で遊び、人々が安全・安心に暮らしていける鹿島市を目指す。そのために、「しごとづくり」「ひとづくり」「まちづくり」の好循環が機能することにより、「住みやすく暮らしやすいまち」を創出する。

これまでの取組・成果	2050に向けた新たな取組
【経済】鹿島の「ものづくり」をさらに磨き上げて、鹿島ならではの仕事を生み出す	
環境資本を活用した事業、化学や輸送用機械等の産業とその関連産業を中心としたものづくり 産業らのクラスターの構築によって「稼ぐ力+所得の循環」の構造構築が実現。 また、脱炭素の取組により、農業・漁業のスマート化で徹底した無駄の削減、その他汚泥有効利用施設・地域商社などで雇用を創出。 若者が地元に残ることができるような、地場産業の振興を図る。	環境資本の活用の強化施策である「鹿島モデル」により、関連産業の創業支援および鹿島市独自の環境評価に基づいた事業を促進と域外企業との連携を促進する。
【社会】「住みやすく暮らしやすい」、「鹿島市の特色を活かした魅力あるまちづくり」による定住人口と交流人口の増加	
環境に特化した先進的な取組と積極的な情報発信により人口流入が増加。また、 基幹産業である第一次産業の振興により、地域のレジリエンスが向上、若者の定住促進、企業誘致を企図する。	防災や自然環境づくり、市民の生きがいづくりにより、「住みやすく暮らしやすい」、「鹿島市の特色を活かした魅力あるまちづくり」を進めることが、「鹿島市に住んでみたい」、「鹿島市に住んでよかった」という市民の満足度の向上につながり、働く場を生み出し、若者が活躍する地域の形成。女性が働きやすく子育てしやすい環境が整備され、若い世代の移住・定住が増えている。
【環境】人と自然が共生できる地球に優しい自然豊かな街づくり	
地域循環共生圏の中で「ローカルSDGs」を推進。 環境と産業の調和のための事業により、環境に資する事業が生み出されている。	30by30を含む生物多様性保全に配慮した脱炭素のまちづくり及びクローズドリサイクルの実現による産業振興がなされ、域内・域外企業の巻き込みにより産業促進と課題解決を行ってきた地域循環共生圏の取組を軸とした鹿島版GXの実現している。

これまでのSDGs推進の実績

平成28年から環境省の提案する「地域循環共生圏」の取組の中で環境に特化した「ローカルSDGs」を推進。

- 令和3年3月～肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー制度設立（現在84団体）
- 令和3年4月 金融機関5行との連携協定締結（ESG金融）
- 令和3年9月 「佐賀新聞社」との連携協定（報道に関する協定）
- 令和4年9月 ゼロカーボンシティ宣言表明
- 令和4年10月 「九州電力」との連携協定（エネルギーに関する協定）
- 令和4年9月 「日本工営」との連携協定（自治体SDGs診断モデル都市）
- 令和5年5月 クローズドリサイクルを目指し、「バイオマスレジンホールディングス」との連携協定予定

⇒これら7年間の取組が評価され、

令和4年度 環境省「環境まちづくり賞」・

国土交通省「グリーンインフラ大賞」・

内閣府「地方創生SDGs金融表彰」の3冠達成



地方創生SDGs
金融表彰

SDGs事業の核となる「鹿島モデル」と 肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー

肥前鹿島干潟 SDGs 推進パートナー制度



有明海の環境保全を通じてSDGsの推進に取り組む企業、団体等を募集しています

要件

- 肥前鹿島干潟を中心とした有明海の環境保全活動につながる取り組みをしていること
- 地域課題の解決に向けた取組などSDGsのさらなる推進に取り組む意欲があること
- 目指しているSDGsのゴールが明確であること

登録すると

- 「肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー登録証」を交付します
- 鹿島市ホームページや市報などで取組内容を紹介します
- SDGsの推進に関する各種情報を提供します

鹿島市役所 ラムサール条約推進室

お問い合わせ / ☎ 0954-63-3416 ✉ ramsar@city.soga-kashima.lg.jp



 佐賀西信用組合

 佐賀銀行

 十八親和銀行

 九州ひぜん信用金庫

 JFC 日本政策金融公庫

 医療法人誠晴会
ふきあげ納富病院

PI PHOTONICS, INC.  いであ株式会社

 東武トップツアーズ

 株式会社 日水コン

 佐賀新聞社

 株式会社 植松建設

 Make Next.
未来へつなぐ数々のために
九電工

 今資会社 光武酒造場

 能寛

 蔵心

 KURITA
栗田工業株式会社

 九州電力

 日創プロニティ

 日本工営株式会社

 JCI
Junior Chamber International Kyushu

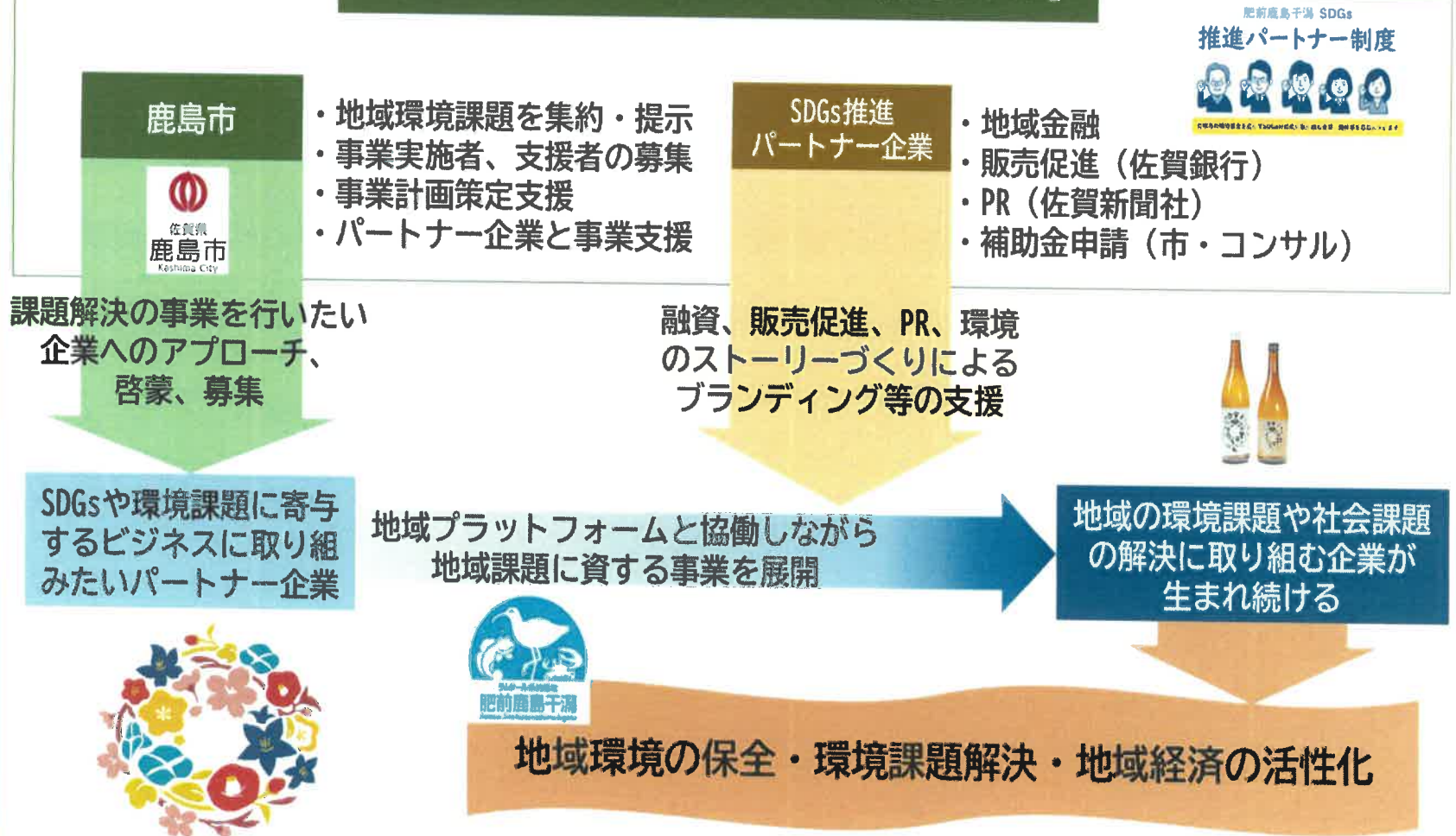
 NIKAWA

 AORI

84社のSDGsパートナー企業が支援

三側面をつなぐ総合的取組

SDGs事業創出プラットフォーム「鹿島モデル」



鹿島市独自の環境評価

指標・目標案

子供が外で遊び、生態系が保たれ、
鹿島原風景・鹿島の当たり前前の生活を持続的に

まち・ひと・しごと創生 総合戦略

【政策目標 1】
鹿島のものづくりをさら
に磨きあげて鹿島
ならではのしごとを生
み出す

【政策目標 2】
定住促進と交流人
口の拡大

【政策目標 3】
若者の定住を促し、
安心して結婚・出
産・子育てができる
環境づくりの推進

【政策目標 4】
安全安心の確かな暮らし
を営むずっと住み続けたい
まちの実現

一次アウトカム

状態目標

カーボンニュートラルが実現する

2050年GHG実質排出量ゼロ（カー
ボンニュートラル）
2030年GHG -○○%

Gxビジネスの一大拠点となる

Gx事業参画事業者数
市内Gx事業総売上、従事者数

バイオプラによるクローズドリサイクル

プラスチック利用量
バイオプラによるプラスチック市内受給
の完結

ネイチャーポジティブが実現する

BD、ESの劣化が底を打ち、改善局面
に入る（面積と質で分けて考える。質
は、種数・α多様性、普通種を含む生
物個体数、調整サービスで評価）

危険個所のGi化、Nbsが実装される

危険性が指摘されている森林のうち、
・ 棚田による緩衝帯が確保された延
長割合
・ 崩壊安全性の向上した森林面積

関係／交流人口が増加する

鹿島市へのレポート入込数
市内相互理解度の向上

アウトプット

再エネ生産○○TJ／年

蓄電池等設備導入○件

CO2吸収量（t／年）

再エネ利用○○TJ／年

省エネ○%

再エネ生産推進区域 ha

再エネ設備抑制区域 ha

Gx事業市場及び事業体数

廃プラ発生量（削減量）

廃プラリサイクル率

市内バイオプラ生産量

市内バイオプラ利用率

バイオマス生産荒廃地面積

BD、ES上重要で保全するエリア
を明示し、定量目標として組み込
んだLBSAP

自然共生サイト認定面積（率）

有効な管理が実施されている棚
田面積

新規植林、有効管理森林面積

修学旅行入込者数

エコツアー参加者数

対話の場に参加した人数

アクティビティ

再エネ（創エネ）設備設置推進

再エネ利用施設、設備、体制構築推進

吸収源対策の推進

グリーンスローモビリティの導入

省エネ等、その他取組の推進

ゾーニング

Gx事業推進の仕組み構築

プラスチック利用削減

硬質プラスチックのリサイクル推進

市内バイオマスによるバイオプラ生産・利用

BD、ESの評価とマッピング

LBSAP策定

保全体制整備と自然共生サイト申請

Gi機能が期待される棚田の特定と保全

崩壊の可能性が高い場所や緩衝帯での植林

修学旅行誘致

市民対話の場の創出

エコツアーの実施（誰が、が大事）

テーマ①：
脱炭素

テーマ②：
GX推進

テーマ③：
循環型社会

テーマ④：
生物多様性基盤

テーマ⑤：
グリーンインフラ(GI)

テーマ⑥：
環境に関する
関係／交流人口増加

市民との対話



こども・保護者・企業とそれぞれの立場からのディスカッション



中学生・高校生によるプレゼン

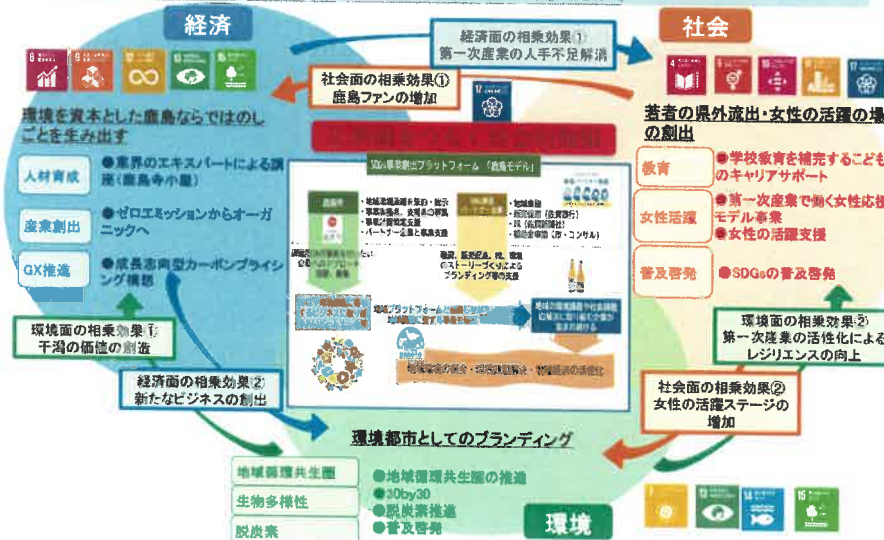
市民×企業×行政×環境省×金融庁×財務省×Jリーグ
「熱中症ゼロに向けてできるアクションって何だろう？」

経済・社会・環境の各側面の相乗効果

2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名: SDGs事業創出プラットフォーム「鹿島モデル」を起点に、環境中心の取り組みから経済・社会の取り組みへボトムアップ! 提案者名: 佐賀県鹿島市

取組内容の概要: 市独自の環境評価と事業化支援により環境に資する事業を生み出し続ける「鹿島モデル」から、経済・社会・環境の地域課題の解決を目指す。当市の環境資源である森里川海干潟に新たな付加価値をつけ、働く女性が多く、かつ若手の担い手が減少している第一次産業の新たな事業の創出から、SDGsの目標達成を導く。



経済⇔環境

- ・ 環境に資する事業⇒新たな価値の創造
- ・ GX推進⇒新たなビジネスの創出

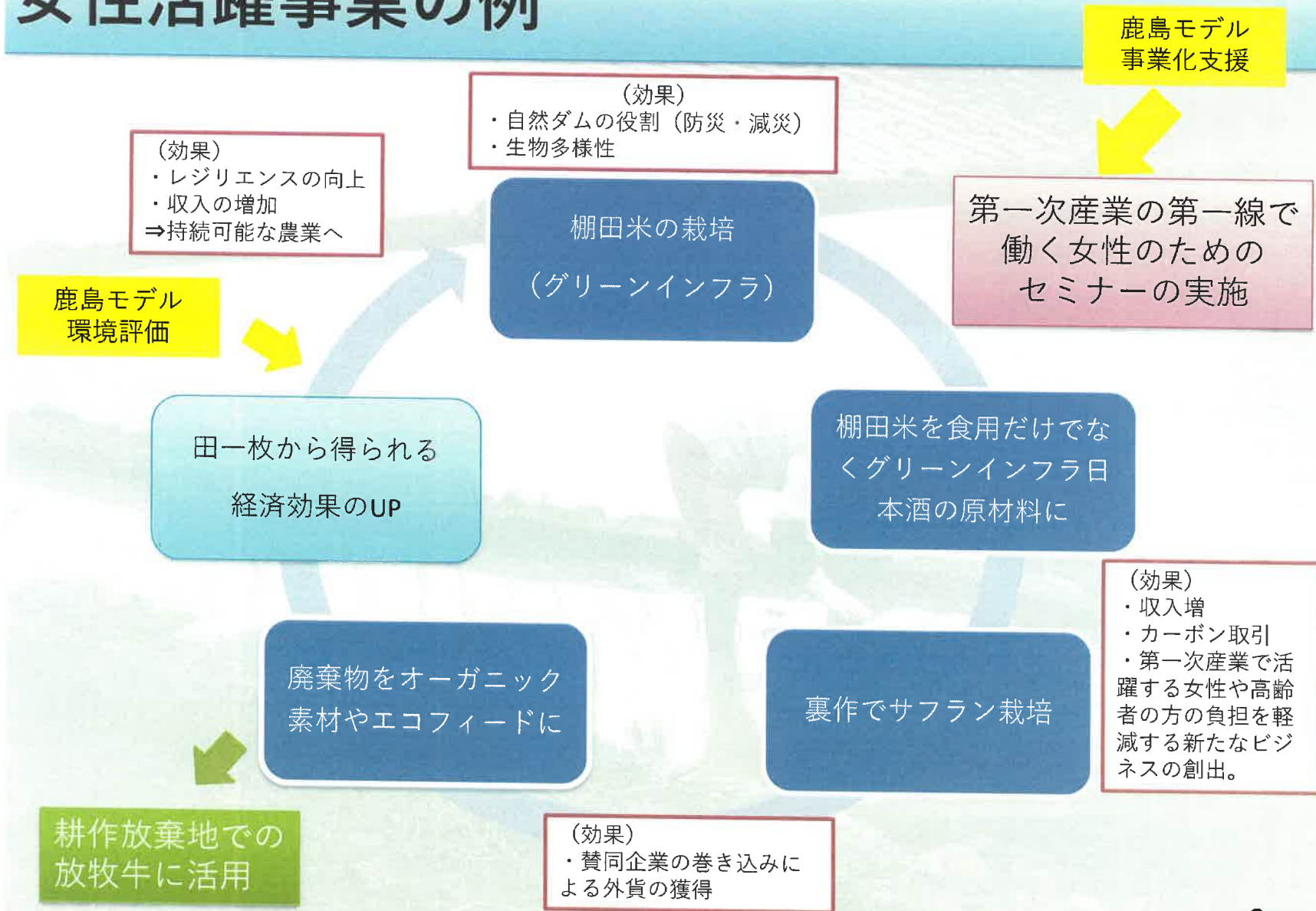
社会⇔経済

- ・ 新たなビジネスの創出⇒鹿島ファンの増加
- ・ 稼げるビジネスの創出⇒第一次産業の人手不足解消

環境⇔社会

- ・ 地域循環共生圏の推進⇒女性の活躍ステージの増加
- ・ 第一次産業の活性化⇒レジリエンスの向上・生物多様性

女性活躍事業の例



スケジュール

	取組名	2023年度												2024年度	2025年度
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
統合	SDGs事業創出プラットフォーム 「鹿島モデル」のブラッシュアップ	SDGs総合戦略策定・鹿島モデルのモデルチェンジ事業 計画⇒事業実施 ⇒効果測定⇒評価												事業実施 効果測定 評価	事業実施 効果測定 評価
経済	①-1 女性の活躍・人材育成	講座実施 												起業セミナー	実走
	①-2 産業創出 ゼロエミッションからオーガニックへ	素材の特定⇒調査⇒試験													商品化
	①-3 GXの推進	CO2吸収源区域調査  イノベーション企業との連携 												利活用方法検討	カーボンオフ セット取組に 向けた実走
社会	②-1 教育 学校教育を補完するこどものキャリアサポート	環境教育プログラムの実施 寺子屋の実施  ものづくりフェスタの実施 企業説明会の実施 アンケート実施												左に同じ	左に同じ
社会	②-2 女性活躍	研修開催（年4回）												研修開催（年4回）	研修開催（年4回）
	②-3 普及啓発	SDGs診断⇒フィードバック⇒アワード 研修												診断 フィードバック アワード 研修	診断 フィードバック アワード 研修
環境	③-1 地域循環共生圏事業の推進 （アワードの設立）	アワード設立準備⇒アワード公募⇒決定												アワード公募 決定	アワード公募 決定
	③-2 30by30を含む生物多様性保全に配慮した脱炭素まちづくり	脱炭素先行地域申請 事業計画⇒事業実施 												事業実施	事業実施